



政治専攻「演習1」
第1期第2次募集



【目次】

1. 募集について	1 頁
2. 募集に関する注意事項	2 頁
3. 選考方法	3 頁
4. ゼミ内容	4 頁
➤ 上神 貴佳先生	4 頁
➤ 菊田 真司 先生	5 頁
➤ 坂本 一登 先生	6 頁
➤ 佐藤 俊輔 先生	7 頁
➤ 芝崎 祐典 先生	8 頁
➤ 宮下 大志 先生	9 頁

1. 募集について

【募集スケジュール】

第1期第1次募集	
終了しました。	

第1期第2次募集	
応募期間	11月2日（月）12時～11月6日（金）12時50分
選考期間	11月9日（月）～11月14日（土）
可否発表	11月16日（月）20時予定 / K-SMAPY2にて

※第1期第2次募集において、全1年生が登録できていない場合に限り、未確定者を対象に第1期第3次募集を行います。

※第1期第1次募集で選考に合格し、2つ目の演習を希望する場合には、この後に実施する第2期募集で応募してください。

【応募方法】

K-SMAPY II より

※ログイン後、上部バナー「アンケート」より応募してください。

[【目次に戻る】](#)

2. 募集に関する注意事項

- (ア) 上記の募集期間に必ず応募してください。応募期間外の応募は認められません。
- (イ) K-SMAPY IIからの応募がなく、面接を受ける、または課題の提出だけをしているケースがありましたので、必ずK-SMAPY IIから応募も行ってください。
- (ウ) 担当教員によって選考方法（面接・レポート・テストなど）は異なりますので、「選考方法」で必ず内容を確認の上、応募するようにして下さい。
- (エ) 毎年ありますが、提出期限を超えたりレポートの提出は認められませんし、面接時間への遅刻・面接の欠席に関する取り次ぎはいたしません。
- (オ) 政治専攻では、同一年度に複数ゼミを受講することが出来ます。2つ目のゼミを希望する場合には11月に行われる**第2期募集**で応募できます。
- (カ) ゼミに合格後、他のゼミへの変更はできません。
- (キ) 各教員の連絡先は個人情報のため、お教えできません。
- (ク) ゼミ応募に関する問い合わせ先は以下のとおりです。

【問い合わせ先】

教務課	①9時～12時50分 ②13時50分～20時30分
法学資料室（若木タワー7階）	①9時～17時

※月曜日～土曜日で受け付けます。

※日曜日・祝日は学年暦に準じ、授業実施日に限り開室いたします。

[【目次に戻る】](#)

3. 選考方法

希望する教員の選考方法を確認してください。

例年、レポートの提出期限や面接日時を間違えているケースがありますので、ご注意ください。

教員名	選考方法	提出方法・レポート締切日時	レポート内容	備考
		面接日時	面接教室	
上神 貴佳	レポート	K-SMAPY II アンケート画面で回答 11月6日（金）12時50分	本演習を志望する理由	（書式）自由 （字数）1,000字 <u>要メールアドレス記入</u>
	面接	11月9日（月） 16時20分～16時50分	オンライン	
菊田 真司	レポート	メール送付 karita@kokugakuin.ac.jp 11月12日（木）17時00分	自己紹介とゼミの志望理由	（書式）Word形式 A4横書き （字数）800字程度
	面接	11月13日（金） 12時10分～	オンライン	
坂本 一登	レポート	メール送付 kazutos@kokugakuin.ac.jp 11月8日（日）17時00分	志望理由と現在関心をもって いること	（書式）自由 （字数）1,000字程度 <u>zoom面接が可能なアドレスからレポートは送信してください</u>
	面接	11月9日（月） 16時00分～17時00分	オンライン	
佐藤 俊輔	レポート	メール送付 s.sato@kokugakuin.ac.jp 11月6日（金）12時50分	①演習の志望理由 ②現在関心を持っている国際 政治上の現象、問題について	（書式）A4・ワード （字数）1,000字以上
芝崎 祐典	レポート	メール送付 lecture.shibazaki@gmail.com 11月6日（金）12時50分	募集要項を参照	（書式）ワード （字数）800字～1,000字
宮下 大志	レポート	メール送付 miyashita@kokugakuin.ac.jp 11月6日（金）13時00分	現在の日本の政治をどう評価 するか	（書式）自由（ただし Word ファイルか Pages ファイル でメール添付提出） （字数）1,200字
	面接	11月14日（土） 13時00分～	オンライン	

[【目次に戻る】](#)

4. ゼミ内容

[【目次に戻る】](#)

教員名	上神 貴佳
演習テーマ	歴史としての平成と日本政治
演習内容	<p>平成も約 30 年をもって、令和という新たな時代を迎えることになった。歴史としての平成をどのようにとらえればよいのだろうか。とくに昭和との関連で平成の政治や経済、社会の課題を理解することを試みつつ、次の時代を展望してみたい。</p> <p>近年、平成を振り返るさまざまな書籍が出版されている。本演習の教科書としては、小熊編（2014年）、薬師寺（2014年）、佐藤・片山（2018年）などを用いることにする。教科書の読破は、受講生に求められる最低限の課題である。複数のテキストを読み比べつつ、本演習のテーマ（歴史としての平成と日本政治）について、自分なりの理解を得られるように、各自が学習を進めてもらいたい。</p> <p>本演習の進め方については、グループに分かれて、報告班と質問班を交互に担当することを想定している。また、いずれの担当になるかによらず、毎回、参加者全員がレジュメを提出する。演習の最後には、各自が本演習のテーマに沿って、レポートを作成して提出してもらう。</p>
教科書	<p>小熊英二（編）『平成史【増補新版】』河出ブックス，2014年。 薬師寺克行『現代日本政治史』有斐閣，2014年。 佐藤優・片山杜秀『平成史』小学館，2018年。 など</p>
参考文献	必要に応じて、適宜紹介する。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	菊田 真司
演習テーマ	ベーシックインカムの可能性
演習内容	<p>コロナ感染症が流行して、経済活動が停止した際、一時的であれ、収入を失う人が数多く生まれました。これに対して、政府は、国民全員に10万円の特別定額給付金を配付することで、当面の危機を乗り切ろうとしました。</p> <p>今回の特別定額給付金のように、所得によらず一定の給付金を国民全員に支給する(ただし、一時的ではなく、継続的に)考え方をベーシックインカム(基礎的所得保障)と呼びます。右派・左派を問わず、以前から議論に上っていたベーシックインカムは、コロナ禍の中で、現実的な政策選択肢の1つとして考えられるようになってきました。</p> <p>それでは、ベーシックインカムには、どのような長所と問題点があるのでしょうか。ベーシックインカムが主張される背景には、どのような考え方が潜んでいるのでしょうか。来年度の演習では、ベーシックインカムをテーマに、その実現可能性と背景を考えていきたいと思います。</p> <p>演習は、全員で質疑応答や討論をしながら文献を読んでいく形式で行われます。参加者は、報告や議論によって、毎回積極的に演習に関わってもらいます。また、夏休み以降に、自分の選んだテーマについてゼミ論文を執筆してもらいます。</p> <p>応募する人は、あなたの人となりを理解することができる「自己紹介」と「ゼミの志望理由」を合わせて800字程度にまとめて、11月12日(木)17時までに、メールでkarita@kokugakuin.ac.jpまで送付してください。折り返し、面接用のZoom情報を送付しますので、確認しやすいメールアドレスから送ってください。</p> <p>なお、選考にあたっては、積極的に参加する意欲のある人を優先します。</p>
教科書	<p>ルトガー・ブレグマン、『隷属なき道』、2017年</p> <p>ガイ・スタンディング、『ベーシックインカムへの道』、2018年</p> <p>アニー・ローリー、『みんなにお金を配ったら』、2019年</p> <p>デヴィッド・グレーバー、『ブルシット・ジョブ』、2020年</p> <p>など(全部読むわけではありません)</p>
参考文献	<p>原田泰、『ベーシック・インカム 国家は貧困問題を解決できるか』、2015年</p> <p>井上智洋、『AI時代の新・ベーシックインカム論』、2018年</p>
備考	<p>面接当日に都合が悪くなった場合や、ゼミについての質問や文献等についての質問がある場合には、karita@kokugakuin.ac.jpまでメールで申し出てください。</p>

[【目次に戻る】](#)

<p>教員名</p>	<p>坂本 一登</p>
<p>演習テーマ</p>	<p>国際関係のなかの日米戦争</p>
<p>演習内容</p>	<p>来年度の前期は、日本の開戦過程を、アメリカやイギリスの動向を踏まえながら、考えていきたい。戦争には、必ず相手が存在し、決して日本側の一方的な意思決定のみによって起こるわけではない。日本はなぜ敗戦が必至の戦争に突入していったのだろうか、その問いを、国内の政治的要因のみならず、国内の経済的要因、さらにはアメリカやイギリスなど国際的要因を加味することでより立体的に考察する。具体的には、まず国内の経済ファクターについて検討した上で、アメリカの動きを考える。一般的に、日米戦争は日本の暴走によって勃発したと見なされることが多い。だが逆に、アメリカ側が日本を戦争に追い込んでいったのではないかという見方も根強く存在する。つぎに、イギリスはどのような対応を、日本の開戦過程においてとったのだろうか。この問題を、イギリスのインテリジェンスつまり国家による情報収集とその分析を中心に考え、日本との比較を行いたい。その後、英米両国と対峙した、日本の陸軍が明治以来どのように発展し変貌をとげてきたのかを見ていきたい。</p> <p>前期は、報告者を1人決め、その報告を聞いた上で、自由に議論を行う。ゼミ生は、必ず1回は報告する。後期は、小論文を執筆する。自ら選んだテーマについて、その構想を報告し、全員で議論しながら、2年生はゼミペーパー（4000字程度）、3年生はゼミ論（12000字程度）を完成させる。報告と小論文の完成は、単位取得の必須の要件である。</p>
<p>教科書</p>	<p>牧野邦昭：経済学者たちの日米開戦：秋丸機関「幻の報告書」の謎を解く（新潮選書） ジェフリー レコード：アメリカはいかにして日本を追い詰めたか： 「米国陸軍戦略研究所レポート」から読み解く日米開戦（草思社文庫） 小谷 賢：日英インテリジェンス戦史：チャーチルと太平洋戦争（ハヤカワ・ノンフィクション文庫） 小林 道彦：近代日本と軍部 1868-1945（講談社現代新書） 伊藤 桂一：兵隊たちの陸軍史（新潮選書）</p>
<p>参考文献</p>	<p>その都度、指示する。</p>
<p>備考</p>	<p>演習は、毎回出席が基本である。真面目で熱意のある学生を希望する。 面接の時間が都合悪い場合、メールにて相談してください（kazutos@kokugakuin.ac.jp）</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐藤 俊輔
演習テーマ	主権国家体系とその変容を考える
演習内容	<p>演習の前期には、国際政治における主権国家体系に生じてきた変化について、理論的な側面からアプローチする。国際政治における主権国家体系と、あるいはその変化の捉え方について、これまでリアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムなど多様な理論潮流のなかで考察と検討がなされてきたことは論を待たないが、今回の演習では特に英国学派という理論について焦点を当て、検討を行っていききたい。</p> <p>英国学派は「国際社会」という概念を用いて国際政治を捉えてきた理論潮流であり、その国際社会の拡大という見方はウェストファリア条約以来の国際関係の変化を歴史のなかで捉えなおすことを可能としている。また、そのような英国学派の研究が進展する中で、ヨーロッパからの主権国家体系の拡大という視点を超えて、それ以前の、あるいはその外部の国家体系へとその視角を広げる試みもなされてきた。そのため、やや理論的な側面が強くなるが、国際政治の原理とその変化を捉えようとする重要な潮流のひとつとして、本演習の前期では英国学派について深く学んでいきたい。</p> <p>その上で、後期にはゼミ論文を書くことをひとつの目標とするが、それと並行して演習の中でさらにEUに関する文献を輪読していくこととしたい。近年度重なる危機に見舞われているEUであるが、やはり域内では地域統合を大きく深化させる中で主権国家体系を変化させてきた側面が指摘できる。そのEUの歴史と制度、そして政策のなかで表れている課題とはどのようなものかを検討していくことにより、国際的な統合がもたらす新たな問題とは何かについて考えていくこととする。</p> <p>これらの文献の輪読を進めながら、各人には演習のなかでゼミ論文へ向けた研究と、研究に基づくプレゼンテーションを行ってもらおうこととします。</p>
教科書	バリー・ブザン『英国学派入門—国際社会論へのアプローチ』日本経済評論社、2017年 池本大輔他『EU政治論』有斐閣、2020年
参考文献	その他の論文や関連書籍について開講時にご案内します。
備考	※上記教科書は予定であり、追加・変更することがあります。

[【目次に戻る】](#)

教員名	芝崎 祐典
演習テーマ	国際関係論／国際関係史
演習内容	<p>前期は国際関係論や国際関係史に関する研究専門書を輪読します。割り当て箇所を発表してもらい、それをもとに参加者全員で討議します。読んでもらう課題文献の分量は少なくなく、密度も高いものなので、積極的に勉強したい学生を歓迎します。演習の無断欠席は認めません。</p> <p>後期は参加者各自が設定した個人研究テーマについての発表や、各自で選択した文献に基づいた報告を行います。個人研究テーマ設定は前期に扱う共通テーマの範囲内である必要はなく、広く国際関係論や国際関係史のなかから関心のあるトピックを自由に探してもらいます。これについて各自がリサーチし、年度の最終に各自の研究テーマをゼミ論（研究論文）にまとめて提出してもらいます。テーマ設定や研究の進め方、論文の書き方などの方法論については随時指導します。</p> <p>ゼミに応募を希望する学生は、以下のレポートを応募期間内にメールで送付してください。（メールの件名に「國學院演習応募」と記してください。） (1) ゼミ志望理由、(2)勉強の中で今まで最も関心を持ったこと（国際関係論や国際関係史に限らず、何の分野でも良い）：この二つを盛り込んで自由に文章を作成してください。</p>
教科書	開講後にご案内します。
参考文献	適宜紹介します。
備考	

[【目次に戻る】](#)

<p>教員名</p>	<p>宮下 大志</p>
<p>演習テーマ</p>	<p>日本の政治、日本の民主主義、そして日本の未来</p>
<p>演習内容</p>	<p>日本の政治、日本の民主主義、そしてこれからの日本のあり方について論じてみたいと思います。</p> <p>日本の政治と民主主義は、かつては「55年体制」のもと、かわりばえのしない、そしてあまりよくないイメージで見られてきました。しかしみなさんの生まれる前、その「55年体制」が崩れ、また日本の政治状況の変化もあって、55年体制の時代とは違う要素も出てくるようになりました。一応、政権交代も起こりました。</p> <p>しかし、近頃の政治を見ていると「本当に変わったのか?」、あるいは「進歩はしているのか?」と首を傾げてしまう気持ちも湧いてきてしまいます。</p> <p>そこで、来年度のゼミではこの日本の政治・民主主義について、どう評価すべきか、今後はどうなるのが望ましいかなどを論じてゆきたいと思います。</p> <p>そしてそのために、過去の日本の政治を検討したり、現在の問題点を考えたり、今後のあるべき姿を議論したり、ということとみなさんとやってゆく予定です。</p> <p>そしてその際には、欧米との比較や理論的考察も盛り込めたら、とも考えています。</p> <p>なお、応募者は、「現在の日本の政治をどう評価するか」というテーマで、自分なりの今の日本の政治についての評価を記したレポートを期日までにメール添付で提出してください。その際、必ずメール本文に応募者の氏名を明記してください。</p>
<p>教科書</p>	<p>開講時に指定します</p>
<p>参考文献</p>	<p>必要に応じて紹介します</p>
<p>備考</p>	<p>面接は、zoom を使ったのオンライン面接となります。個別面接ですので、全体としては11/14（土）の13時開始ですが、一人一人の面接開始時間は異なります。zoom 面接の URL と、個人の面接開始時間は、レポート提出したアドレスへの返信で前日までに通知します。通知した開始時間の2、3分前にログインし、待機しててください。</p> <p>面接の日時にどうしても都合がつかない、あるいは開始時間を配慮してほしい（「4限にオンライン授業があるのでその前に設定してほしい」など）場合は、レポート提出の際のメールで知らせてください。</p> <p>なお、面接は一人15分ほどを予定しています。ですので、応募者が例年になく多くならない限り、遅くとも15時には最後の面接を終えられるかと思えます。</p>